

本当に使える!

抗菌薬^の

選び方・使い方

ハンドブック

Contents

序 戸塚恭一 3

第1章 押さえておきたい 抗菌薬使用の基本

1. 押さえておきたい 抗菌薬使用の基本 大曲貴夫 12

2. 多剤耐性菌の耐性機序・現状・感染症治療薬 石井良和 21

第2章 知っておきたい 細菌の基礎知識

1. **グラム陽性球菌**

黄色ブドウ球菌 富田治芳 34

コアグララーゼ陰性ブドウ球菌 富田治芳 37

連鎖球菌 富田治芳 38

肺炎球菌 富田治芳 40

腸球菌 富田治芳 42

2. **グラム陽性桿菌**

クロストリジウム・ディフィシル 小林真詰 45

リステリア菌 小林真詰 47

セレウス菌 小林真詰 48

3. **グラム陰性球菌**

淋菌 松本哲哉 51

髄膜炎菌 松本哲哉 52

モラクセラ・カタラーリス 松本哲哉 54

4. **グラム陰性桿菌**

大腸菌 舘田一博 56

肺炎桿菌 舘田一博 57

エンテロバクター, セラチア, プロテウス, シトロバクター などの腸内細菌	舘田一博	59
緑膿菌	舘田一博	60
アシネトバクター・バウマニ	舘田一博	62
赤痢菌	舘田一博	63
サルモネラ属細菌	舘田一博	64
腸炎ビブリオ	舘田一博	65
インフルエンザ菌	舘田一博	66
バクテロイデス	舘田一博	68
レジオネラ属菌	斧 康雄	69
百日咳菌	斧 康雄	71
カンピロバクター属菌	斧 康雄	73
5. その他の細菌		
梅毒トレポネーマ	斧 康雄	76
非結核性抗酸菌	松津洋平, 長谷川直樹	78
肺炎マイコプラズマ	斧 康雄	82
リケッチア科	斧 康雄	84
クラミジア科	斧 康雄	87

第3章 各抗菌薬の特徴

1. βラクタム系 ペニシリン系抗菌薬	栗原慎太郎, 柳原克紀	94
総論		94
① 天然型ペニシリン		
ベンジルペニシリン		98
② アミノペニシリン		
アモキシシリン		100
アンピシリン		100
③ ペニシリナーゼ抵抗性ペニシリン		
アンピシリン・クロキサシリン		102
④ 抗緑膿菌作用を有するペニシリン		
ピペラシリン		103
⑤ β ラクタマーゼ阻害薬配合薬		
クラブラン酸・アモキシシリン		104
スルタミシリン		105
スルバクタム・アンピシリン		105
タゾバクタム・ピペラシリン		106
2. βラクタム系 セフェム系抗菌薬	比嘉 太	108
総論		108
① 第一世代セフェム系抗菌薬		

セファゾリン	115
② 第二世代セフェム系抗菌薬	
セフォチアム	116
セフメタゾール	117
③ 第三世代セフェム系抗菌薬	
セフトリアキソン	118
セフォタキシム	119
セフチゾキシム	120
セフトアジジム	120
スルバクタム・セフォペラゾン	121
フロモキシセフ	121
④ 第四世代セフェム系抗菌薬	
セフェピム	122
セフォゾプラン	123
セフピロム	123
3. βラクタム系 モノバクタム系抗菌薬 樽本憲人, 前崎繁文	125
総論	125
アズトレオナム	126
4. βラクタム系 カルバペネム系抗菌薬 吉田耕一郎	129
総論	129
イミペネム・シラスタチン	132
パニペネム・ベタミプロン	133
メロペネム	134
ピアペネム	136
ドリペネム	137
テビペネム ピボキシル	138
5. グリコペプチド系抗菌薬, 環状リポペプチド系抗菌薬	
笠原 敬	140
総論	140
バンコマイシン	142
テイコプラニン	144
ダプトマイシン	147
6. オキサゾリジノン系抗菌薬 相野田祐介	150
総論	150
リネゾリド	151
7. アミノグリコシド系抗菌薬 木村利美	153
総論	153
① 抗結核菌作用を有する	
ストレプトマイシン	157
カナマイシン	157

② 主としてグラム陰性桿菌に抗菌力があり抗緑膿菌作用はない リボスタマイシン	158
③ 主としてグラム陰性桿菌に抗菌力があり抗緑膿菌作用を有する アミカシン	158
ゲンタマイシン	159
トブラマイシン	159
④ 淋菌に適応を有する スペクチノマイシン	160
⑤ MRSAに適応を有する アルベカシン	161
8. ニューキノロン系抗菌薬 照屋勝治	162
総論	162
① レスピラトリーキノロン (一部) ガレノキサシン	167
モキシフロキサシン	167
トスフロキサシン	168
② 主としてグラム陰性菌に対して用いられるキノロン系抗菌薬 シプロフロキサシン	169
レボフロキサシン	169
シタフロキサシン	170
9. マクロライド系抗菌薬 白井 亮, 門田淳一	172
総論	172
① 14員環マクロライド エリスロマイシン	175
クラリスロマイシン	176
② 15員環マクロライド アジスロマイシン	178
③ 16員環マクロライド ジョサマイシン	181
④ リンコマイシン系 クリンダマイシン	182
10. テトラサイクリン系抗菌薬 宮下修行	184
総論	184
ドキシサイクリン	187
ミノサイクリン	188
11. その他 小林 治	190
① ST合剤 スルファメトキサゾール・トリメトプリム	192
② メトロニダゾール メトロニダゾール	195

第4章 感染部位別 抗菌薬の選び方と使い方

1. 肺炎	中村茂樹, 河野 茂	198
市中肺炎		198
医療・介護関連肺炎		212
人工呼吸器関連肺炎		214
2. 敗血症	竹内慎哉, 松永直久, 坂本哲也	218
3. 発熱性好中球減少症	木村宗芳, 荒岡秀樹	230
4. 蜂窩織炎, 皮膚軟部組織感染症	藤田崇宏	238
5. 尿路感染症	清田 浩	250
尿路感染症		250
カテーテル関連尿路感染		255
6. 細菌性髄膜炎	坂田 宏	262
7. 骨髄炎	松下和彦	274
骨髄炎		274
生体材料の術後感染		280
8. 感染性心内膜炎	平井由児	286
9. 腹腔内感染	竹末芳生	300
10. 中耳炎・鼻副鼻腔炎	山中 昇	305
急性中耳炎		308
急性鼻副鼻腔炎		319
11. 中心静脈カテーテル関連感染症	國島広之	332
12. 手術部位感染症	草地信也	342
13. <i>Clostridium difficile</i> 感染	山岸由佳, 三鴨廣繁	355

付 録

浦上宗治, 青木洋介

1. 臓器 (疾患) 別: 頻度の高い原因微生物一覧	364
2. 腎機能障害別薬剤量一覧	373

事項索引	379
薬剤名索引	385